

---

---

2024年度 通期業績

# 決算説明資料

---

---

地球の恵みを、社会の望みに。



2025年5月13日

エア・ウォーター株式会社  
2024年度通期決算説明スクリプト

説明者

代表取締役社長・COO 松林 良祐  
広報・IR推進室長 植杉 文

2025年5月13日

**はじめに**

- 決算サマリー（2024年度通期実績／2025年度通期予想）・・・4
- 株主還元方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
- エア・ウォーターの成長戦略・・・・・・・・・・・・・・6
- 前中計期間における成長戦略施策の実行状況・・・・・・・・7
- 大阪・関西万博への出展・・・・・・・・・・・・・・8

**2024年度 通期業績**

- 連結損益計算書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
- セグメント別 売上収益・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
- セグメント別 営業利益・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
- セグメント別 売上収益・営業利益・・・・・・・・・・・・13
- 連結財政状態計算書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
- キャッシュ・フローの状況・・・・・・・・・・・・・・・・19
- 設備投資・減価償却費・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

**2025年度 通期業績予想**

- 2025年度 通期業績予想・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
- セグメント別 通期業績予想・・・・・・・・・・・・・・・・23
- セグメント別 営業利益・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
- 事業環境認識・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
- 設備投資計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26

**補足資料**

- セグメント別 主な事業内容・・・・・・・・・・・・・・・・28
- 連結対象会社数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
- ユニット別 売上収益・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
- 国内ガス種別 売上収益・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
- セグメント別 事業利益・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
- 地域事業会社 売上収益・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
- 主要グループ会社／グローバル&エンジニアリング 分野別  
売上収益・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
- 売上収益・営業利益の推移・・・・・・・・・・・・・・・・35
- ROE・当期利益の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
- 配当の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
- 直近の主なリリース一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38

---

---

# はじめに

---

---

(単位：億円)	2024年度 実績	前期比		2025年度 予想	前期比	
		増減	率		増減	率
売上収益	10,759	+514	105.0%	11,500	+741	106.9%
営業利益	752	+70	110.2%	840	+88	111.6%
親会社所有者 帰属利益	491	+47	110.6%	530	+39	108.0%
営業利益率	7.0%	+0.3pt	—	7.3%	+0.3pt	—

## 2024年度 通期実績

- 物価上昇、為替変動の影響を受けるなど、厳しい事業環境であったものの、価格マネジメント、生産性向上のほか、半導体工場の新增設に伴う機器・工事業、AI関連需要を背景としたデータセンター向けガス消火設備・高出力UPS事業の拡大等により、増収増益で過去最高業績を達成

## 2025年度 通期予想

- 不透明な事業環境が継続  
米国の関税政策による当社グループ業績への直接的な影響は軽微であると認識
- 最先端半導体関連向け事業の拡大、機能材料・コンシューマーヘルス分野の回復のほか、産業ガス・業務用塩を中心とした価格マネジメントの継続等で全セグメントで増収増益を見込む

## 説明者：代表取締役社長・COO 松林 良祐

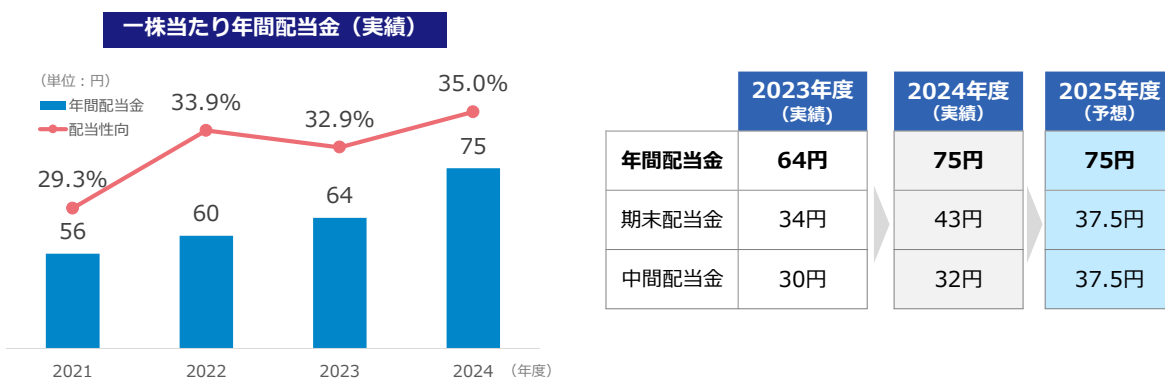
本日は、エア・ウォーターの決算説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。決算の全体概況について説明させていただきます。

2024年度の通期業績は、売上収益が1兆759億円で前期比5.0%増、営業利益が752億円で10.2%増、親会社所有者帰属利益が491億円で10.6%増という結果になりました。物価上昇、為替の変動などコスト上昇の影響を受けるなど、大変厳しい事業環境となりましたが、価格マネジメント、生産性向上の取り組み、半導体工場の新增設にともなう機器・工事案件、AI関連需要を背景としたデータセンター向けガス消火設備・高出力UPS事業の拡大等により、過去最高業績を達成いたしました。

2025年度も引き続き不透明な事業環境が継続すると予想しています。全事業において販管費の低減、価格マネジメントによる収益力強化、24年度に低迷した機能材料、コンシューマーヘルス、フーズ分野などにおける不採算取引の抜本的な見直し、半導体、データセンター、海外領域における事業強化、拡大により、全セグメントで増収増益を見込んでいます。

## 中長期的な株主還元方針

- ◆ 配当性向の基準を、従来の30%から35%へ引き上げ
- ◆ 中長期的に業績に見合った安定的な配当を行うこととし、累進配当を基本方針とする



株主還元方針についてご説明いたします。

このたび、株主の皆様に対する利益還元の一層の充実を図る目的として、株主還元方針を変更いたしました。

従来、配当性向は30%を基準としておりましたが、35%に変更します。  
また、中長期的に業績に見合った安定的な配当を行うこととし、累進配当を基本方針とします。

2024年度の期末配当金は期初計画から11円増配し、43円で実施します。  
中間配当金とあわせた年間配当金は75円となります。

## Purpose

地球の恵みを、社会の望みに。



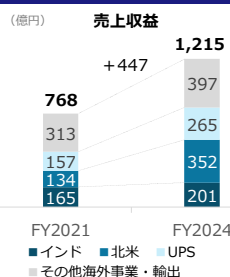
エア・ウォーターグループは、「地球の恵みを、社会の望みに。」のパーパスの下、デジタル&インダストリー、エネルギーソリューション、ヘルス&セーフティー、アグリ&フーズの4つの事業領域で成長戦略を推進。社会課題の解決を通じたさらなる企業価値の向上に取り組んでいます。

既存事業においては、価格マネジメントと生産性向上等による収益力強化を進め、同時に、将来に向けて成長領域での新事業構築を推進しています。

注力分野としては、インド・北米を中心とする海外産業ガス事業、データセンター・半導体工場を中心とするデジタル領域での事業強化を推進しています。

また、中長期のテーマとなりますが、カーボンニュートラル、食糧安定供給を世界共通の社会課題ととらえ、その解決に資する製品、事業の構築にも取り組んでいます。

## 海外領域の拡大



全社業績に対する海外売上比率は  
21年度8.6%から、24年度11.3%と2.7pt上昇

## デジタル・半導体関連の拡大



- デジタル・半導体産業における製造拠点の増強に対応した大型プラント投資や新規取引先の開拓によってガス需要を獲得
- 特殊ケミカルや材料、ガス精製装置、関連工事といった半導体製造を支えるグループ商材・サービスを総合的に展開

※デジタル・半導体関連事業の売上収益を単純合計

## 国内既存事業の収益力強化

- 価格マネジメントの実施  
(産業ガス営業利益率 21年度9.7%→24年度11.3%)
- 生産性向上 (産業ガス製造プラント、食品工場等)
- 自社内の物流効率化、内製化率向上

## 社会課題解決に向けた中長期の注力テーマ

- カーボンニュートラル推進室を新設  
→ 気候変動の対応に関する諸施策を立案・推進
- 企業のGHG排出削減に貢献する事業を推進  
→ グリーン産業ガス・バイオメタンの販売開始

## 人的資本投資

- 研究開発拠点の拡充 (エア・ウォーターの森、湘南イノベーションラボ)
- 総合エンジニアリング拠点の新設 (グローバルエンジニアリングセンター)
- 海外研修、AI・DX等の研修プログラムの導入

## 新規事業創出力、グローバル競争力を強化

前中期経営計画期間である 2022年度から2024年度の3か年における成長戦略拡大の取り組みの実績についてご説明させていただきます。

当社は、海外領域、デジタル・半導体関連を成長領域と位置づけ、投資と事業拡大を進めています。また、国内既存事業の収益力の強化を図るほか、将来の成長基盤とすべく、社会課題解決に向けた中長期の注力テーマに取り組んでいます。

海外領域は24年度の売上収益が1,215億円と21年度比で447億円増となりました。

全社業績に対する海外売上比率は21年度8.6%から、24年度11.3%と2.7pt上昇しました。

インドでは、充填所等のバリューチェーンを支えるインフラ拡充が進捗するとともに、今後の成長と核となるオンサイト案件を受注したことで産業ガスの販売数量が増加しました。

北米は、産業ガスディストリビューターのM&A投資を実施したことにより、注力地域における産業ガスバリューチェーンを拡充してきました。また、ガスプラント投資も進め、製造から販売までの一気通貫のサプライチェーンを構築しています。

UPS (無停電電源装置) 事業は、アセアン、北米におけるデータセンター・半導体工場向けの需要を積極的に獲得し、これを着実に進捗させることにより事業拡大を果たしてきました。

デジタル・半導体分野では、24年度の売上収益が1,143億円と21年度比で205億円増加。特に、半導体工場の新增設の動きに連動し、産業ガス、化学品、機材等の販売を拡大するとともに、機器・設備工事の需要を獲得し、着実に進捗してきたことがこの結果につながっています。

国内既存事業の収益力強化の取り組みとしては、価格マネジメントおよび生産性向上の取り組みを継続的に実施しています。産業ガスの営業利益率が21年度9.7%から24年度11.3%まで上昇したほか、自社内の物流効率化の取り組みを進めました。

中長期の取り組みとしては、気候変動の対応に関する諸施策を立案・推進するカーボンニュートラル推進室を新設し、GHG排出削減や環境貢献事業創出を統合的に推進する体制を構築しました。

当社の主力事業である産業ガス事業で培った分離・精製・液化・貯蔵技術を活用して、北海道で、家畜ふん尿由来のエネルギー「液化バイオメタン」の商用利用を開始しています。また、当社が保有するバイオマス発電所の電力を活用して、産業ガスの製造時の電力由来のCO2をマスバランス方式でオフセットした「グリーン産業ガス」の発売を開始、ユーザーのCO2排出削減に貢献するメニューをラインアップしています。

グローバルでの競争力の源泉となる人材の育成、人的資本投資に注力してきました。

開発拠点投資、総合エンジニアリング拠点を開設し、新規事業創出に向けたイノベーション人材の育成を進めています。次世代のグローバル人材育成に向けて、海外研修の充実、全従業員を対象としてAI・DX関連の研修プログラムの導入を進め、新規事業の創出力、グローバル競争力を図っています。

近未来の「地球環境」と「ウェルネス」をデザインし、サステナブル社会の構築に貢献する当社の取り組みを広くステークホルダーの皆さまに体験いただくことを目的として大阪・関西万博に出展

### ウェルネス

健やかな暮らしへの貢献

#### 【大阪ヘルスケアパビリオン】



#### 「ミライの都市」ゾーン 『ネオライフスタイルLDK』

「REBORN」をテーマに、「いのち」や「健康」の観点から、子どもから大人までが楽しみながら、ミライの大阪の可能性を感じることができる展示体験を提供

#### 「ミライの食と文化」ゾーン 『AIR WATER NEO MIX STAND』

おいしく健康的に食べる喜びを、次の世代に手渡すとともに、大阪の豊かな食文化・新たな食文化を発信

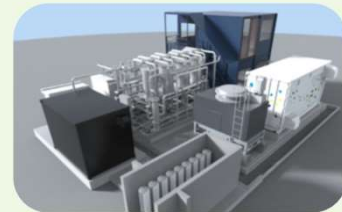


### 地球環境

カーボンニュートラルへの貢献

#### 【未来社会ショーケース グリーン万博】

#### カーボンリサイクルファクトリー 次世代型CO<sub>2</sub>回収装置 『地球の恵みステーション』



ボイラー燃焼排ガスからCO<sub>2</sub>を高効率・低コストで回収し、有効活用する実証展示を通じて、カーボンニュートラルに貢献

当社は、サステナブル社会の構築に貢献する取り組みを広くステークホルダーの皆さまに体験いただくことを目的として、大阪・関西万博に出展しています。

「大阪ヘルスケアパビリオン」内の「ミライの都市ゾーン」では「2050年のミライのホーム」を展示、未来の運動や癒し、未来の食生活、カーボンニュートラルが実装された社会を体験いただけます。

また、グリーン万博のカーボンリサイクルファクトリーに次世代型CO<sub>2</sub>回収装置「地球の恵みステーション」を出展しています。

ボイラー燃焼排ガス中のCO<sub>2</sub>を高効率、低コストで回収し、メタネーションの原料として再利用したり、ドライアイスを製造し、万博会場内で利用するカーボンリサイクルの社会実装に向けた展示実証を行っています。

私の説明は以上です。

---

---

## 2024年度 通期業績

---

---

© AIR WATER INC | 9

**説明者：広報・IR推進室長 植杉 文**

2024年度通期業績の詳細についてご説明いたします。

(単位：億円)	2023年度	2024年度	増減	
			金額	率
売上収益	10,245	<b>10,759</b>	+514	105.0%
売上原価	▲8,043	<b>▲8,444</b>	▲401	
売上総利益	2,203	<b>2,315</b>	+113	105.1%
販売費・一般管理費	▲1,584	<b>▲1,668</b>	▲84	
その他の収益・費用	44	<b>62</b>	+19	
持分法による投資利益	21	<b>43</b>	+22	
営業利益	683	<b>752</b>	+70	110.2%
金融収益・費用	▲16	<b>▲13</b>	+3	
税引前当期利益	667	<b>740</b>	+73	110.9%
法人所得税費用	▲206	<b>▲236</b>	▲30	
非継続事業からの当期利益（▲は損失）	▲0	<b>▲0</b>	▲0	
当期利益	461	<b>504</b>	+43	109.2%
親会社の所有者に帰属する当期利益	444	<b>491</b>	+47	110.6%
非支配持分	18	<b>13</b>	▲5	
営業利益率	6.7%	<b>7.0%</b>		
基本的1株当たり当期利益 ※1	194.69円	<b>214.57円</b>		
ROE ※2	9.7%	<b>9.8%</b>		

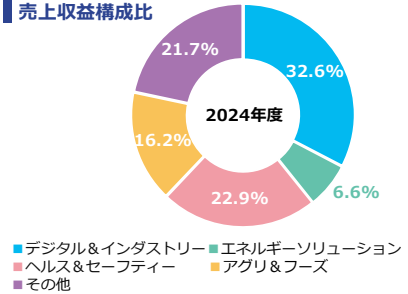
※1 基本的1株当たり当期利益は期中平均発行株式数により算出しています。

※2 「親会社の所有者に帰属する当期利益」  
÷ 「親会社の所有者に帰属する持分（期首・期末の平均）」

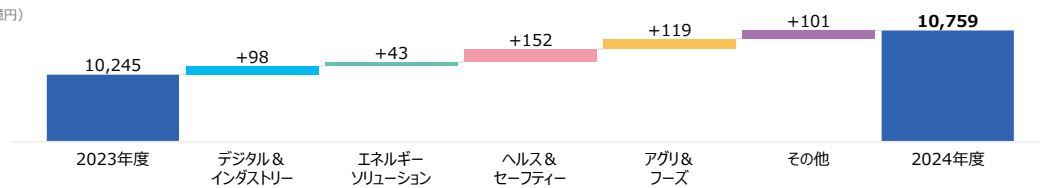
全体数値ですが、売上収益が514億円の増収、営業利益が70億円の増益となりました。営業利益率は7.0%と前期の6.7%から0.3ptプラスとなりました。ROEは9.8%と前期より改善しました。

(単位：億円)

グループ	2023年度	2024年度	増減	
			金額	率
デジタル&インダストリー	3,413	<b>3,511</b>	+98	102.9%
エネルギーソリューション	666	<b>709</b>	+43	106.5%
ヘルス&セーフティー	2,309	<b>2,461</b>	+152	106.6%
アグリ&フーズ	1,626	<b>1,745</b>	+119	107.3%
その他	2,232	<b>2,334</b>	+101	104.5%
合計	10,245	<b>10,759</b>	+514	105.0%

セグメント別  
売上収益構成比

(単位：億円)



© AIR WATER INC. | 11

続きましてセグメント別の売上収益・営業利益についてご説明いたします。  
資料の11ページ、12ページをご覧ください。

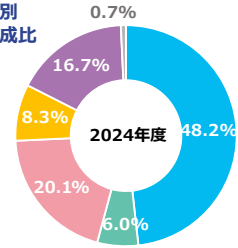
売上収益は、全てのセグメントで前期を上回りました。  
営業利益は、アグリ&フーズセグメントを除くすべてのセグメントで増収となりました。  
続きまして、セグメント別の数値についてご説明いたします。  
資料の13ページをご覧ください。

セグメント別 営業利益

(単位：億円)

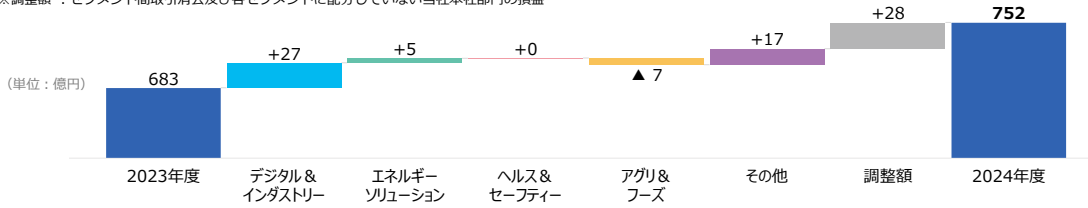
グループ	2023年度	2024年度	増減	
			金額	率
デジタル&インダストリー	336	<b>363</b>	+27	108.0%
エネルギーソリューション	40	<b>45</b>	+5	111.6%
ヘルス&セーフティー	151	<b>151</b>	+0	100.1%
アグリ&フーズ	69	<b>62</b>	▲7	89.9%
その他	109	<b>126</b>	+17	115.8%
調整額*	▲22	<b>6</b>	+28	-
合計	683	<b>752</b>	+70	110.2%

セグメント別  
営業利益構成比



■ デジタル&インダストリー ■ エネルギーソリューション  
 ■ ヘルス&セーフティー ■ アグリ&フーズ  
 ■ その他 ■ 調整額

\*調整額：セグメント間取引消去及び各セグメントに配分していない当社本社部門の損益



(単位：億円)	2023年度	2024年度	増減	前期比
売上収益	3,413	3,511	+98	102.9%
営業利益	336	363	+27	108.0%
営業利益率	9.8%	10.3%	+0.5pt	-

## 主な増減要因

## 売上収益 +98億円

- 【+】
  - ・ 産業ガスの価格マネジメント●
  - ・ 半導体関連向けオンサイトガス、機器等の販売増★
- 【-】
  - ・ 機能材料分野での無水フタル酸の販売減◆
  - ・ 半導体製造装置向けオリングの販売減◆

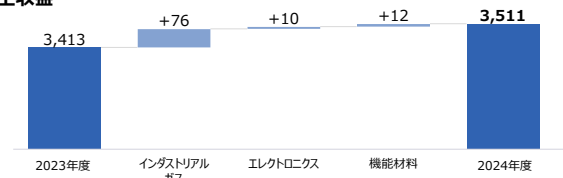
## 営業利益 +27億円

- 【+】
  - ・ 産業ガスの価格マネジメント●
  - ・ 半導体関連向けオンサイトガス、機器等の販売増★
- 【-】
  - ・ ヘリウム市況軟化に伴う原価影響●
  - ・ 機能材料分野における原料高等の影響◆

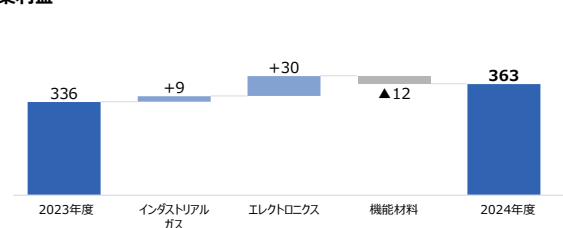
●インダストリアルガス ★エレクトロニクス ◆機能材料

## ユニット別増減

## 売上収益



## 営業利益



© AIR WATER INC. | 13

デジタル&インダストリーセグメントについてご説明します。

売上収益は、3,511億円で98億円の増収となりました。

産業ガスの価格マネジメント効果、半導体工場の新増設に連動したオンサイトガス供給、特殊ケミカルや供給装置、熱制御装置などの機器の販売が増えたことが寄与しましたが、機能材料分野で、無水フタル酸等の有機酸製品の需要低迷や半導体装置向けオリングの在庫調整の影響を受けました。

営業利益は363億円で27億円の増益となりました。

機能材料分野やヘリウム市況の影響を受けましたが、半導体関連事業が好調に推移したこと、ローリー・シリンダー供給を対象としたガス価格改定効果により、前期を上回りました。

(単位：億円)	2023年度	2024年度	増減	前期比
売上収益	666	709	+43	106.5%
営業利益	40	45	+5	111.6%
営業利益率	6.1%	6.4%	+0.3pt	-

## 主な増減要因

## 売上収益 +43億円

- 【+】
- 市況連動によるLPガス、灯油の販売単価上昇●
  - LNG及びLNG関連機器の販売増◆

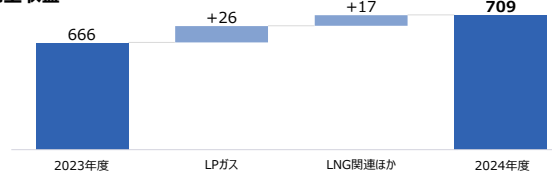
## 営業利益 +5億円

- 【+】
- 市況連動によるLPガス、灯油の販売単価上昇●
  - LNG及びLNG関連機器の販売増◆
  - 低採算取引の見直しによる収益改善●

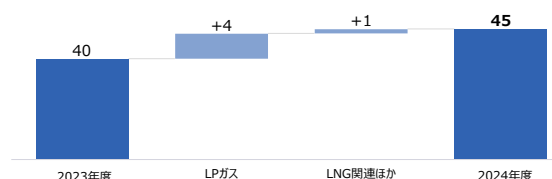
● LPガス ◆ LNG関連ほか

## ユニット別増減

## 売上収益



## 営業利益



エネルギーソリューションセグメントについてご説明します。

売上収益は709億円で43億円の増収となりました。

北海道を中心とした家庭向けLPガスや灯油、またLNG製品が市況価格に連動し、販売価格が上昇したこと、さらにLNG及びLNG関連機器の拡販も寄与したことから、前期を上回りました。

営業利益は45億円で5億円の増益となりました。

売上収益の増加に加え、LPガスの低採算の取引を見直したことにより増益となりました。

(単位：億円)	2023年度	2024年度	増減	前期比
売上収益	2,309	2,461	+152	106.6%
営業利益	151	151	+0	100.1%
営業利益率	6.5%	6.1%	▲0.4pt	-

## 主な増減要因

## 売上収益 +152億円

- 【+】
  - 医療サービスにおける消耗品の取扱増 ●◆
  - 衛生材料の取扱増及び価格改定等 ■
  - 海外での病院向け工事案件増 ★

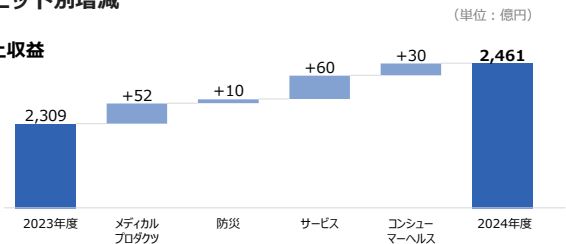
## 営業利益 +0億円

- 【+】
  - データセンター等の防災関連工事の完工 ★
  - 医療機器の販売増 ●
- 【-】
  - エアゾールの受託減 ■
  - 国内における新規の病院工事案件減 ★

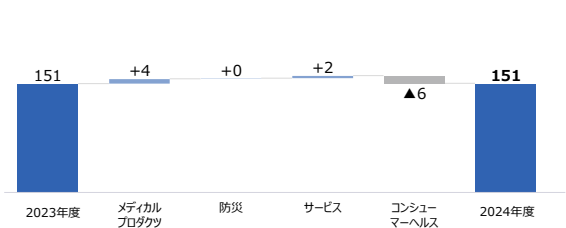
●メディカルプロダクツ ★防災 ◆サービス ■コンシューマーヘルス

## ユニット別増減

## 売上収益



## 営業利益



© AIR WATER INC. | 15

ヘルス&セーフティーセグメントについてご説明します。

売上収益は2,461億円で152億円の増収となりました。

病院業務のアウトソーシング先として院内のSPD事業（物品管理業務）である医療サービスが拡大したことに加え、消耗品販売の伸長、衛生材料分野における価格改定の効果や海外における病院工事案件の増加などで増収となりました。

営業利益は151億円と前期並みとなりました。

データセンター向けガス消火設備の工事案件が堅調に推移したものの、前期に好調であったエアゾールの受託製造が減少した影響や日本における新規の病院工事案件が減少しました。

(単位：億円)	2023年度	2024年度	増減	前期比
売上収益	1,626	1,745	+119	107.3%
営業利益	69	62	▲7	89.9%
営業利益率	4.3%	3.6%	▲0.7pt	-

## 主な増減要因

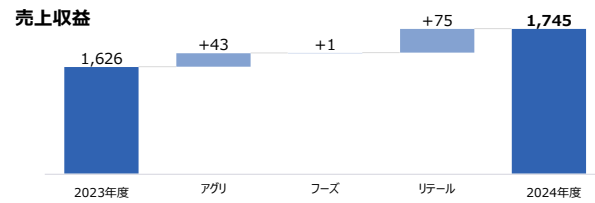
## 売上収益 +119億円

- 【+】 ・ 2023年度に実施したM & Aの新規連結効果★
- ・ 野菜・果実系飲料等の受託増●
- ・ 冷凍ブロッコリー等の野菜の販売増●◆

## 営業利益 ▲7億円

- 【-】 ・ 豚肉等の原材料コスト影響◆
- ・ 冷凍ブロッコリー事業にてのれんの減損損失計上◆
- 【+】 ・ 野菜・果実系飲料等の受託増●

## ユニット別増減



## 営業利益



● アグリ ◆ フーズ ★ リテール ※2024年度2Qより、アグリユニットとナチュラルフーズユニットを再編し、リテールユニットを新設。詳細はP29をご覧ください。 © AIR WATER INC. | 16

アグリ&フーズセグメントについてご説明します。

売上収益は1,745億円で119億円の増収となりました。

野菜・果実系飲料の受託製造が好調に推移したこと、北米での冷凍ブロッコリーの販路拡大、九州で青果仲卸事業を展開する丸進青果(株)を前期に新規連結した効果があり、増収となりました。

営業利益は62億円と7億円の減益となりました。

フーズユニットにおけるハム・デリカで、豚肉などの原料価格上昇の影響や冷凍ブロッコリー事業におけるのれんの減損損失を計上したことで、前期を下回りました。

(単位：億円)	2023年度	2024年度	増減	前期比
売上収益	2,232	2,334	+101	104.5%
営業利益	109	126	+17	115.8%
営業利益率	4.9%	5.4%	+0.5pt	-

## 主な増減要因

## 売上収益 +101億円

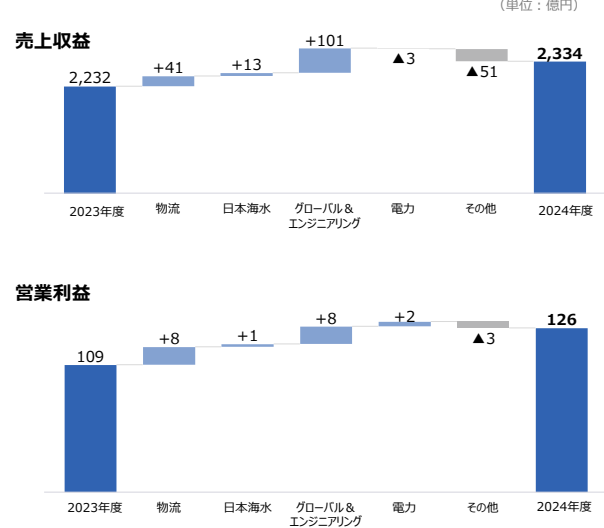
- 【+】
- 2023年度に実施したM&Aの新規連結効果（北米）◆
  - 物流事業における料金改定及び3PLの荷扱量増●
  - 高出力UPS（無停電電源装置）事業の拡大◆

## 営業利益 +17億円

- 【+】
- 高出力UPS（無停電電源装置）事業の拡大◆
  - 電力事業（小名浜バイオマス発電所）における発電燃料であるPKS（パーム椰子殻）の調達コスト下落■
  - 物流事業における料金改定及び3PLの荷扱量増●

●物流 ★日本海水 ◆グローバル&amp;エンジニアリング ■電力 ▼その他

## ユニット別増減



その他セグメントについてご説明します。

売上収益は2,334億円で101億円の増収、営業利益は126億円で17億円の増益となりました。

売上収益では、北米における前期に新規連結したガスディストリビューターの効果、物流事業での受託料金の適正化の取り組みや、3PLにおける荷扱量が増加したこと、高出力UPS（無停電電源装置）事業が拡大したことで増収となりました。

営業利益は、高出力UPS事業の拡大、電力事業における発電燃料であるPKS（パーム椰子殻）価格の調達コストの下落、物流事業での料金改定や3PLの荷扱量が増加したことなどで増益となりました。

以上をもちまして、各セグメントの業績説明は終了となります。

(単位：億円)	2024年3月末	2025年3月末	増減	
			金額	率
流動資産	4,494	<b>4,566</b>	+72	101.6%
非流動資産	7,733	<b>7,936</b>	+202	102.6%
資産合計	12,227	<b>12,501</b>	+275	102.2%
流動負債	3,175	<b>3,279</b>	+104	103.3%
非流動負債	3,967	<b>3,854</b>	▲113	97.2%
負債合計	7,142	<b>7,133</b>	▲9	99.9%
資本合計	5,085	<b>5,369</b>	+284	105.6%
負債・資本合計	12,227	<b>12,501</b>	+275	102.2%
親会社の所有者に帰属する持分	4,886	<b>5,171</b>		
有利子負債	4,433	<b>4,416</b>		
親会社所有者帰属持分比率	40.0%	<b>41.4%</b>		
ネットD/Eレシオ <sup>※</sup>	0.77倍	<b>0.72倍</b>		

※「ネット有利子負債」÷「親会社の所有者に帰属する持分」

連結財政資産合計は、1兆2,501億円となりました。

資産は、現金や棚卸資産の増加、有形固定資産取得等により前期末から275億円増加しています。

負債は、借入金等の有利子負債等により9億円減少しました。

なお、親会社所有者帰属持分比率は41.4%、ネットD/Eレシオは0.72倍と前期末の0.77倍から改善しました。

(単位：億円)	2023年度	2024年度	増減
営業キャッシュ・フロー (①)	796	932	+136
投資キャッシュ・フロー (②)	▲980	▲622	+358
財務キャッシュ・フロー (③)	147	▲273	▲421
キャッシュ・フロー合計 (①+②+③)	▲36	37	+74
現金及び現金同等物の期末残高	650	706	+56
フリーキャッシュ・フロー (①+②)	▲183	311	+494

キャッシュ・フローの状況についてご説明します。

営業キャッシュ・フローは、運転資本の改善が進み、前期末を大幅に上回り、932億円となりました。また、投資キャッシュ・フローは、M&Aによる支出が減少し、マイナス622億円となりました。

フリー・キャッシュ・フローは、311億円とプラスに転じました。

## 設備投資・減価償却費

(単位：億円)	2023年度	2024年度	増減
設備投資	733	805	+72
減価償却費	466	492	+26

## セグメント別 設備投資実績

(単位：億円)	2023年度	2024年度	増減
デジタル&インダストリー	318	306	▲12
エネルギーソリューション	37	49	+12
ヘルス&セーフティー	73	71	▲2
アグリ&フーズ	45	90	+45
その他	259	288	+29
計	733	805	+72

## 2024年度の主な設備投資

- ・ (D&I) エレクトロニクス向けオンサイトプラント
- ・ (ES) 地産地消エネルギーによる資源循環モデルの開発施設
- ・ (A&F) 飲料受託事業の紙容器充填ライン増強
- ・ (その他) インドでの産業ガス製造拠点
- ・ (その他) 低温物流センター (千葉県)

設備投資実績は、総額805億円となりました。

主な設備投資は、エレクトロニクス向けのオンサイトガス供給プラント、インドにおける産業ガス製造拠点など成長領域での投資の他、飲料受託事業の新ライン増設や、低温物流センター建設などです。

---

---

## 2025年度 通期業績予想

---

---

© AIR WATER INC | 21






2025年度通期業績予想についてご説明いたします。

(単位：億円)	2024年度 (実績)	2025年度 (予想)	増減		2025年度 第2四半期累計 (予想)
			金額	前期比	
売上収益	10,759	<b>11,500</b>	+741	106.9%	5,400
営業利益	752	<b>840</b>	+88	111.6%	360
税引前利益	740	<b>810</b>	+70	109.5%	350
親会社の所有者に帰属する当期利益	491	<b>530</b>	+39	108.0%	220
営業利益率	7.0%	<b>7.3%</b>			
基本的 1 株当たり当期利益	214.57円	<b>231.28円</b>			
年間配当額	75.00円	<b>75.00円</b>			
設備投資額	805	<b>940</b>			

※2025年度における想定為替レート：150円/\$

売上収益 1 兆1,500億円、営業利益840億円の増収増益を計画しています。

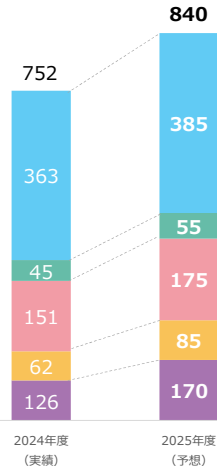
各セグメントの業績予想、事業環境の詳細は、23ページから25ページに記載の通りですが、全セグメントで増収増益を見込んでいます。

	(単位：億円)	2024年度 (実績)	2025年度 (予想)	増減	
				金額	率
 デジタル&インダストリー	売上収益	3,511	<b>3,600</b>	+89	102.5%
	営業利益	363	<b>385</b>	+22	106.2%
 エネルギーソリューション	売上収益	709	<b>750</b>	+41	105.8%
	営業利益	45	<b>55</b>	+10	122.0%
 ヘルス&セーフティー	売上収益	2,461	<b>2,600</b>	+139	105.7%
	営業利益	151	<b>175</b>	+24	115.9%
 アグリ&フーズ	売上収益	1,745	<b>1,800</b>	+55	103.2%
	営業利益	62	<b>85</b>	+23	136.7%
 その他 (物流・日本海水・グローバル&エンジニアリング・ 電力・その他)	売上収益	2,334	<b>2,750</b>	+416	117.8%
	営業利益	126	<b>170</b>	+44	135.1%
(調整額)	営業利益	6	<b>▲30</b>	▲36	-
合 計	売上収益	10,759	<b>11,500</b>	+741	106.9%
	営業利益	752	<b>840</b>	+88	111.6%

※2025年4月1日付で組織変更を実施しているが、本決算は旧セグメントで開示。なお、新セグメントでの開示は2025年度第1四半期を予定。

# セグメント別営業利益

(単位：億円)



セグメント	増益額	主な伸長要因
デジタル&インダストリー	+22	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業ガスの調達コスト変動に応じた価格マネジメント</li> <li>半導体関連機器の販売増</li> <li>無水フタル酸、シール材（Oリング）等の販売数量増</li> <li>新規連結効果（機能材料）</li> </ul>
エネルギーソリューション	+10	<ul style="list-style-type: none"> <li>商権買収等によるL Pガスの販売数量増</li> <li>24年に商業化したバイオメタンの販売数量増</li> <li>垂直ソーラーパネル「VERPA」の販売拡大</li> </ul>
ヘルス&セーフティ	+24	<ul style="list-style-type: none"> <li>化粧品・注射針の受託増</li> <li>データセンター市場の拡大による防災関連工事件増</li> <li>医療・介護従事者の負担低減に向けた医療機器の販売増</li> <li>生産性の改善による衛生材料事業の原価低減</li> </ul>
アグリ&フーズ	+23	<ul style="list-style-type: none"> <li>北海道産農産物を中心とした販売数量増</li> <li>飲料の新充填ライン導入による生産性向上</li> <li>小売・産直市場の新規出店</li> <li>フーズユニットにおける価格マネジメント</li> </ul>
その他 (物流・日本海水・グローバル&エンジニアリング・ 電力・その他)	+44	<ul style="list-style-type: none"> <li>(インド) 新規オンサイト、自社液化ガス工場の稼働</li> <li>(北米) 半導体市場向け産業ガス拡販による数量増、水素関連機器の販売増</li> <li>(海水) 業務用塩の価格改定</li> <li>(物流) 荷扱量増加および食品向け低温物流センターの新規稼働</li> </ul>

デジタル&インダストリー	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 半導体市況は、A I 関連が成長をけん引し、それ以外の分野は緩やかな回復を想定</li> <li>● 電力費等のコスト変動は比較的安定しているものの、高水準が継続</li> <li>● 鉄鋼・化学産業の統合・再編が産業ガス需要・調達へ影響</li> </ul>
エネルギーソリューション	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 低・脱炭素需要の拡大</li> <li>● L P ガス・灯油の配送業務における人手不足</li> <li>● 気温上昇が L P ガス・灯油の消費量に影響</li> </ul>
ヘルス&セーフティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 医療従事者の人手不足を背景としたアウトソーシング需要の拡大、効率化ニーズの高まり</li> <li>● 医療費抑制を背景とした在宅医療ニーズの高まり</li> <li>● データセンターの建設需要が拡大</li> </ul>
アグリ&フーズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 気候変動リスクの高まりによる国内農産物の安定供給ニーズの拡大</li> <li>● 食に関わるニーズの変化（孤食、簡便化）による、冷凍・加工野菜の需要拡大</li> <li>● 原材料費や人件費等のコスト上昇に対応した価格改定の動きが継続</li> </ul>
<b>その他</b> <small>(物流・日本海水・グローバル&amp;エンジニアリング・電力・その他)</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● インドで鉄鋼をはじめとした旺盛なガス需要が継続 (G&amp;E)</li> <li>● データセンターの新增設および半導体市場拡大に伴う U P S 需要の増大 (G&amp;E)</li> <li>● 配送業務における人手不足、コスト上昇 (物流)</li> </ul>

※現時点では、米国の関税政策による業績への影響は軽微と想定。

## セグメント別 設備投資計画

(単位：億円)	2024年度 (実績)	2025年度 (計画)	増減
デジタル&インダストリー	306	276	▲30
エネルギーソリューション	49	46	▲3
ヘルス&セーフティー	71	47	▲24
アグリ&フーズ	90	78	▲12
その他	288	493	+205
計	805	940	+135

## 2025年度の主な設備投資

- ・ (D&I) エレクトロニクス向けオンサイトプラント
- ・ (ES) 地産地消エネルギーによる資源循環モデルの開発施設
- ・ (H&S) エアゾール生産設備の増強
- ・ (A&F) 飲料受託事業の紙容器充填ライン増強
- ・ (その他) インド・北米での産業ガス製造拠点

設備投資計画についてご説明いたします。

2025年度の設備投資計画は940億円です。

国内半導体向けのオンサイトプラントをはじめとするエレクトロニクス分野と、インド・北米での産業ガス分野といった成長をけん引する事業への投資を進めていく他、エネルギーソリューションにおいて、新しい事業の開発に向けた投資も行っていきます。

以上をもちまして、2024年度通期業績の説明を終了させていただきます。

---

---

## 補 足 資 料

---

---

## セグメント別 主な事業内容

グループ	ユニット	主な事業内容
デジタル&インダストリー (D&I)	インダストリアルガス	産業ガス（酸素・窒素・アルゴン・炭酸ガス・水素・ヘリウム等）、産業ガス関連機器・工事
	エレクトロニクス	半導体メーカー向けガス供給、特殊ガス・ケミカル、ガス精製装置、半導体製造装置向け機器、化成品
	機能材料	電子材料、回路製品、精密研磨パッド、Oリング、基礎化学品、食品向け化学品、マグネシア
エネルギーソリューション (ES)	エネルギー	L Pガス・灯油、L Pガス関連機器、L N G関連機器、バイオメタン、低炭素・脱炭素関連の事業開発
ヘルス&セーフティー (H&S)	メディカルプロダクツ	医療用ガス、医療機器、在宅医療、歯科材料
	防災	病院設備工事、ガス系消火設備、呼吸器
	サービス	S P D（病院内の医療材料・医薬品の調達・運用の一元管理）、滅菌
	コンシューマーヘルス	衛生材料、エアゾール、注射針、化粧品
アグリ&フーズ ※ (A&F)	アグリ	飲料、農産加工、農業機械
	フーズ	ハム・デリカ、スイーツ、冷凍野菜
	リテール	青果卸・小売、産直市場
その他	物流	運送、食品物流、医療・環境物流、車体架装
	㈱日本海水	塩、環境、木質バイオマス発電（兵庫県赤穂市、福岡県刈田町）
	グローバル&エンジニアリング	産業ガス（インド・北米）、ガス関連機器、エンジニアリング、高出力UPS（無停電電源装置）
	電力	木質バイオマス発電（福島県いわき市）
	その他	建設工事

※2024年度2Qより、アグリユニットとナチュラルフーズユニットを再編し、リテールユニットを新設。旧ナチュラルフーズユニットに含まれていた飲料事業をアグリユニットに移管。旧アグリユニットに含まれていた青果卸・小売、産直市場の事業をリテールユニットに移管。

【季節性】 D&I/H&S：機器・工事は、年度末である4Qに集中。  
 ES：L Pガス・灯油は、給湯・暖房用に冬場（3・4Q）に集中。  
 A&F：飲料は、最需要期である夏場（2・3Q）に集中。  
 ハム・デリカ、スイーツはクリスマス、お正月、お歳暮で冬場（3・4Q）需要増。  
 青果は、冬場（4Q）が閑散期。

	2024年3月末	2025年3月末	増減
連結子会社*	138	136	5社増加、7社減少
持分法適用会社	12	11	1社増加、2社減少
合 計	150	147	6社増加、9社減少

※連結子会社の数には、当社が直接連結経理処理を実施している会社のみを含めており、連結子会社が連結経理処理を実施している関係会社はその数から除外しています。なお、上記連結子会社には、ジョイント・オペレーション（共同支配事業）を含んでいます。

## 2024年度 主な新規連結会社






該当する会社はありません。

## （参考）2023年度 主な新規連結会社

会社名	セグメント	業績取込期間
㈱日本海水TTS刈田パワー	その他	1-4Q（連結開始：2Q）
丸進青果㈱	アグリ&フーズ	3-4Q（連結開始：3Q）
Phoenix Welding Supply LLC.	その他	1-4Q（連結開始：3Q）
American Gas Products, Inc.	その他	3-4Q（連結開始：4Q）

## ユニット別 売上収益

(単位：億円)






グループ	ユニット	2023年度	2024年度	増減	前期比
 デジタル&インダストリー	インダストリアルガス	1,770	<b>1,846</b>	+76	104.3%
	エレクトロニクス	968	<b>979</b>	+10	101.1%
	機能材料	674	<b>687</b>	+12	101.8%
	グループ計	3,413	<b>3,511</b>	+98	102.9%
 エネルギーソリューション	LPGガス	630	<b>656</b>	+26	104.2%
	LNG関連ほか	36	<b>53</b>	+17	147.0%
	グループ計	666	<b>709</b>	+43	106.5%
 ヘルス&セーフティ	メディカルプロダクツ	795	<b>847</b>	+52	106.5%
	防災	363	<b>374</b>	+10	102.9%
	サービス	581	<b>640</b>	+60	110.3%
	コンシューマーヘルス	570	<b>600</b>	+30	105.3%
	グループ計	2,309	<b>2,461</b>	+152	106.6%
 アグリ&フーズ	アグリ	680	<b>723</b>	+43	106.3%
	フーズ	519	<b>520</b>	+1	100.2%
	リテール	427	<b>502</b>	+75	117.5%
	グループ計	1,626	<b>1,745</b>	+119	107.3%
 その他	物流	618	<b>659</b>	+41	106.7%
	日本海水	514	<b>526</b>	+13	102.4%
	グローバル&エンジニアリング	817	<b>918</b>	+101	112.4%
	電力	124	<b>121</b>	▲3	97.9%
	その他	159	<b>109</b>	▲51	68.1%
	グループ計	2,232	<b>2,334</b>	+101	104.5%

(単位：億円)

グループ	ガス種	2023年度	2024年度	増減	
		金額	金額	金額	率
デジタル&インダストリー	酸素	392	375	▲17	95.7%
	窒素	378	381	+2	100.6%
	アルゴン	134	129	▲6	95.6%
	炭酸ガス	232	242	+10	104.5%
	水素	57	64	+7	111.6%
	ヘリウム	41	49	+7	117.6%
	その他ガス	231	182	▲49	78.9%
エネルギーソリューション	L Pガス	333	350	+17	105.0%
	灯油	137	137	+0	100.1%

※海外における産業ガス及びL Pガス、灯油の売上収益は含めていません。

(単位：億円)

グループ	2023年度	2024年度	増減	
			金額	率
 デジタル&インダストリー	305	<b>326</b>	+21	106.9%
 エネルギーソリューション	35	<b>41</b>	+7	118.9%
 ヘルス&セーフティ	133	<b>141</b>	+8	106.0%
 アグリ&フーズ	63	<b>65</b>	+2	102.7%
 その他	94	<b>116</b>	+22	123.8%
(調整額)	9	<b>0</b>	▲9	0.5%
合計	639	<b>690</b>	+51	108.0%

※事業利益：営業利益からその他収益・費用を控除した利益

(単位：億円)

会社名	2023年度	2024年度	増減	
			金額	率
エア・ウォーター北海道(株)	1,058	<b>1,162</b>	+103	109.8%
エア・ウォーター東日本(株)	973	<b>1,027</b>	+54	105.5%
エア・ウォーター西日本(株)	875	<b>1,032</b>	+157	118.0%
3社合計	2,906	<b>3,221</b>	+314	110.8%

※上記は各地域事業会社の連結業績数値

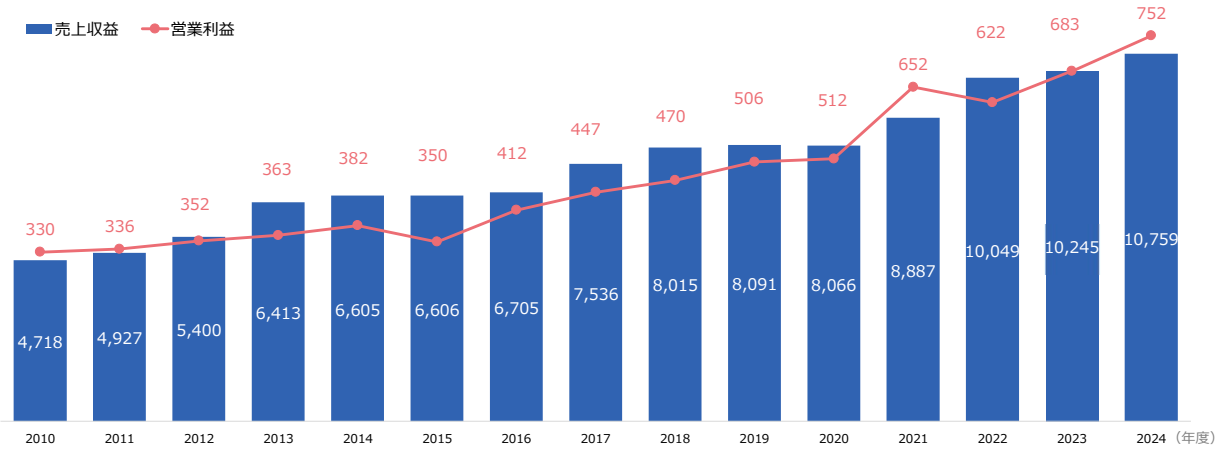
(単位：億円)

会社名／事業名	セグメント	2023年度	2024年度	増減	
				金額	率
エア・ウォーター・マテリアル㈱	デジタル&インダストリー (エレクトロニクス)	492	500	+8	101.7%
エア・ウォーター・パフォーマンスケミカル㈱	デジタル&インダストリー (機能材料)	335	325	▲10	97.1%
タテホ化学工業㈱	デジタル&インダストリー (機能材料)	92	93	+1	100.8%
川本産業㈱	ヘルス&セーフティ (コンシューマーヘルス)	296	329	+33	111.1%
エア・ウォーター・リアライズ㈱	ヘルス&セーフティ (コンシューマーヘルス)	262	282	+19	107.4%
ゴールドバック㈱	アグリ&フーズ (アグリ)	533	550	+17	103.2%
エア・ウォーター小名浜バイオマス電力㈱	その他の事業 (電力)	124	121	▲3	97.4%
インド産業ガス分野※	その他の事業 (グローバル&エンジニアリング)	201	201	▲1	99.7%
北米・欧州産業ガス分野※	その他の事業 (グローバル&エンジニアリング)	330	404	+74	122.4%
高出力UPS分野※	その他の事業 (グローバル&エンジニアリング)	267	284	+17	106.5%

※各グループ会社の単純合算。内部取引消去前の数値。

(単位：億円)

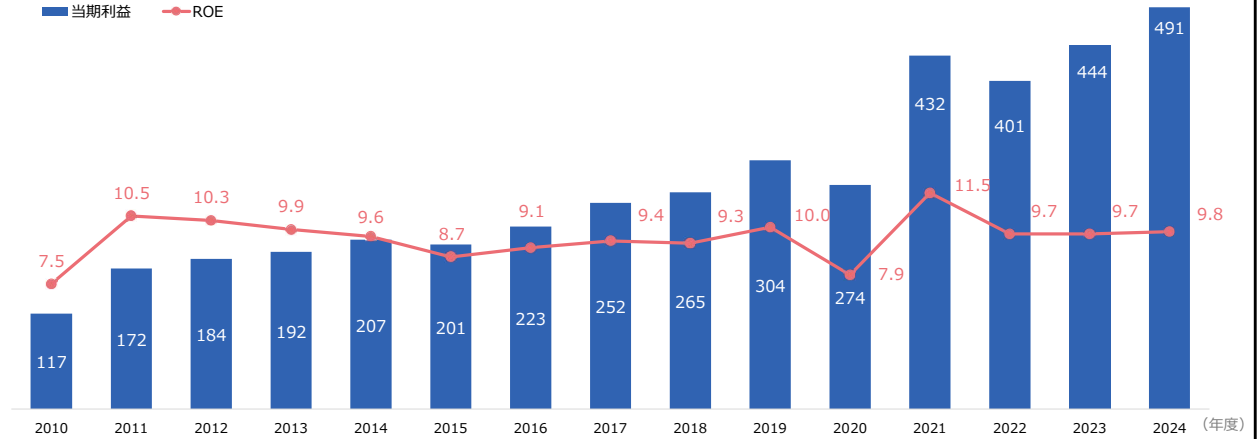
■ 売上収益    ● 営業利益



※利益は2018年度までは日本基準における「経常利益」、2019年度以降はIFRS基準における「営業利益」を表示

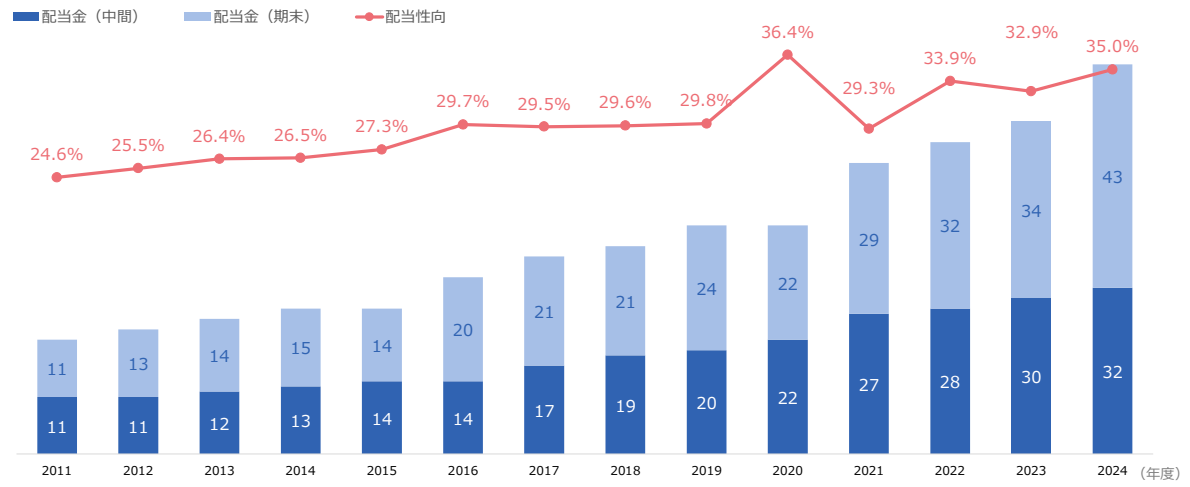
(単位：億円/%)

■ 当期利益    ● ROE



※2018年度までは日本基準、2019年度以降はIFRS基準の数値を記載

(単位：円)



※2018年度までは日本基準、2019年度以降はIFRS基準の数値を記載

リリース日	トピック
2月13日	■ 国立大学法人北海道国立大学機構とエア・ウォーター北海道(株)との包括連携協定締結について
2月17日	■ 当社グループ防府工場内にメガソーラー発電設備導入を決定
2月21日	■ 海外事業における再生可能エネルギー導入に向けた住友商事との協業について
2月26日	■ 食品向け冷凍・冷蔵物流拠点「千葉低温センター」が稼働開始
2月28日	■ 賃上げおよび初任給の引き上げ実施について
3月17日	■ 北里大学とエア・ウォーター みかんの皮を用いた老犬の認知症症状改善に関する共同研究成果を発表
3月18日	■ リョーサンと次世代エネルギーの導入サポート拡大に向けて業務提携
3月19日	■ 組織変更及び取締役を含む役員等の主要人事異動のお知らせ
3月21日	■ 「再生医療研究所」を設立、細胞培養設備の増設により、研究開発体制を強化
3月24日	■ 2025年大阪・関西万博「大阪ヘルスケアパビリオン」当社出展ブースを初公開
3月25日	■ 北海道初 大規模商用水素ステーション 4月1日、「エア・ウォーター水素ステーション札幌大通東」オープン
4月3日	■ 産業ガスプラント・機器の総合エンジニアリング拠点『グローバルエンジニアリングセンター』が稼働開始
4月4日	■ 川本産業株式会社普通株式(証券コード：3604)に対する公開買付けの結果に関するお知らせ
4月21日	■ GI-POF極細内視鏡 (Cellendo Scope) 共同研究発表会を開催
4月23日	■ 5月16日、北海道の自治体向け寄付制度「ふるさと応援H(英知)プログラム」2024年度 寄付授与式を開催
5月9日	■ タイムズ南本町第一駐車場で垂直ソーラー発電システム「VERPA」が稼働

地球の恵みを、社会の望みに。



#### 注 記 事 項

- 本資料に掲載されている目標数値及び将来予想は、現時点で入手可能な情報に基づく当社の判断によるものであり、潜在的なリスクや不確実な要素が含まれています。そのため、さまざまな要因の変化により、実際の業績は記載している将来見通しとは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。
- 当社の財務情報は、IFRS（国際会計基準）に基づき作成しております。